

## プレス発表資料

平成22年4月23日  
独立行政法人 防災科学技術研究所

### 「防災マッシュアップコンテスト」を開催 ～災害リスク情報の相互運用環境を活用した 新しい防災アプリケーションサービスの創出を目指して～

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、国や自治体、専門機関などが所有・公開・提供する災害リスク情報や、インターネット上に存在する様々な情報・サービスの組み合わせ（マッシュアップ）による、複合的な防災アプリケーションサービスの開発やそのアイデアを募集するコンテストを開催します。

これは、災害リスク情報の相互運用環境の実現に向けた実証実験であり、同時に、災害リスク情報を活用した新たな防災アプリケーションサービスの創出を期待してのものです。

5月中旬より申し込みを開始し、作品の締め切りは8月下旬を予定しています。なお、表彰式と記念シンポジウムは9月19～21日にパシフィコ横浜で開催されるG空間EXPOで行います。

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

#### 【内容に関するお問い合わせ】

独立行政法人防災科学技術研究所  
災害リスク情報プラットフォーム  
研究プロジェクト  
リスク研究グループ  
長坂、臼田、田口  
電 話：029-863-7546

#### 【連絡先】

独立行政法人防災科学技術研究所  
企画部広報普及課  
佐竹、山科  
電 話：029-863-7783  
F A X：029-851-1622

# 「防災マッシュアップコンテスト」を開催 ～災害リスク情報の相互運用環境を活用した 新しい防災アプリケーションサービスの創出を目指して～

## 1. はじめに

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、国や自治体、専門機関などが所有・公開・提供する災害リスク情報や、インターネット上に存在する様々な情報・サービスの組み合わせ（マッシュアップ）による、複合的な防災アプリケーションサービスの開発やそのアイデアを募集するコンテストを開催します。

これは、災害リスク情報の相互運用環境の実現に向けた実証実験であり、同時に、災害リスク情報を活用した新たな防災アプリケーションサービスの創出を期待してのものです。

5月中旬よりエントリーを開始し、作品の締め切りは8月下旬を予定しています。なお、表彰式は9月19～21日にパシフィコ横浜で開催されるG空間EXPOで行い、記念シンポジウムの開催も予定しています。

## 2. コンテストの名称

「防災マッシュアップコンテスト」

## 3. 主催

独立行政法人 防災科学技術研究所

## 4. 後援・協力

- ・後援（予定）  
文部科学省、国土交通省、内閣府
- ・協力（予定）  
eコミュニティウェアフォーラム

## 5. 応募対象

本コンテストの趣旨に同意し、災害リスク情報を活用した防災に役立つ新しいアプリケーションサービスの構築に関心のある個人または団体とします。

## 6. 募集内容

「防災」を目的とし、PC、Web、携帯電話、スマートフォン等を活用したアプリケーションサービス、または、そのためのアイデアを募集します。なお、今回はコンテストで使用できる災害リスク情報の制約から、下記の3つの部門に分けて実施することになります。

### ○全国・自由地域部門

空間範囲を定めず、自由にアプリケーションサービスの構築を行う部門

### ○指定地域部門

主催者側が指定する地域について仮想的かつ限定的に各種データを公開し、それを用いた地域詳細版のアプリケーションサービスの作成に取り組む部門

### ○アイデア部門

アプリケーションサービスは構築しないが、「このようなアプリケーションサービスがあったらよい」と思われるアイデアの部門

## 7. 応募期間

平成22年5月17日（月）～8月31日（火）

## 8. 審査と賞

### ・審査員

防災、情報等の有識者から成る専門委員会による審査方式とします。

### ・賞

最優秀賞（各部門1本）、優秀賞（各部門3本）、特別賞などを予定しています。

### ・副賞

賞状などを予定しています。

## 9. 表彰式および記念シンポジウム

表彰式と記念シンポジウムを、平成22年9月19～21日にパシフィコ横浜で開催される、産・学・官連携で行われる地理空間情報の総合的な展示会「G空間EXPO（<http://www.g-expo.jp/>）」にて行う予定です。

## 10. コンテストウェブサイト

<http://bosai-contest.jp>

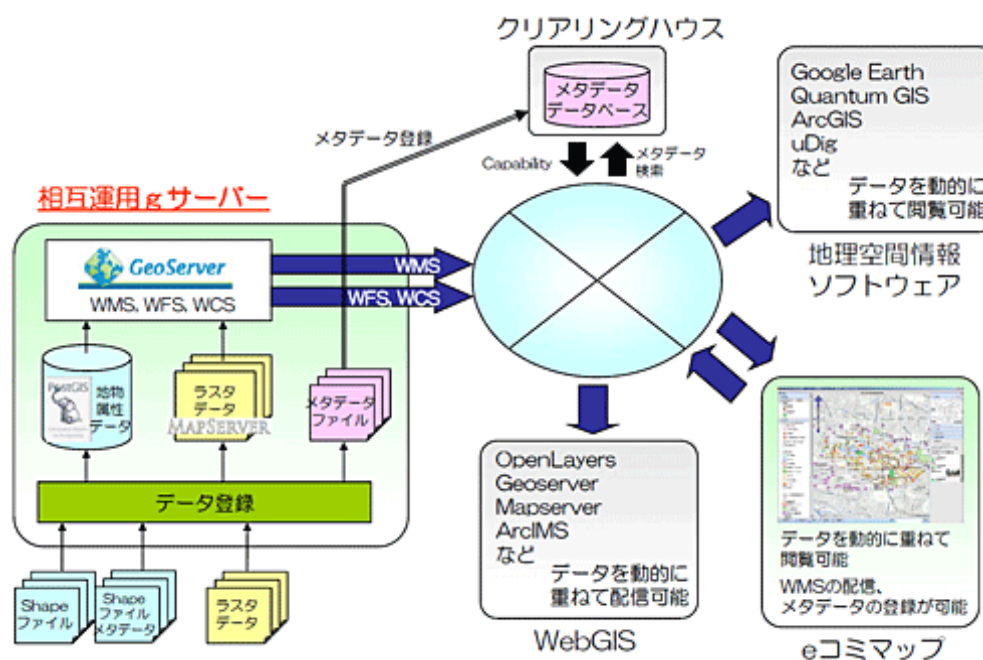
申込期間開始前後にウェブサイトを開設しますので、募集要項などの詳しい情報はこちらをご覧ください。

## 8. 備考

本コンテストは、府省連携による社会還元加速プロジェクトのひとつとして、当研究所が取り組んでいる研究プロジェクト「災害リスク情報プラットフォームの開発に関する研究」の一環として行う実証実験の位置づけとなります。コンテストを介して、国や自治体等が有するハザードマップ等の災害リスク情報を相互運用形式で提供することの意義や有効性を評価検証し、社会に還元することで、災害リスク情報の相互運用環境の実現に資することを目指しています。



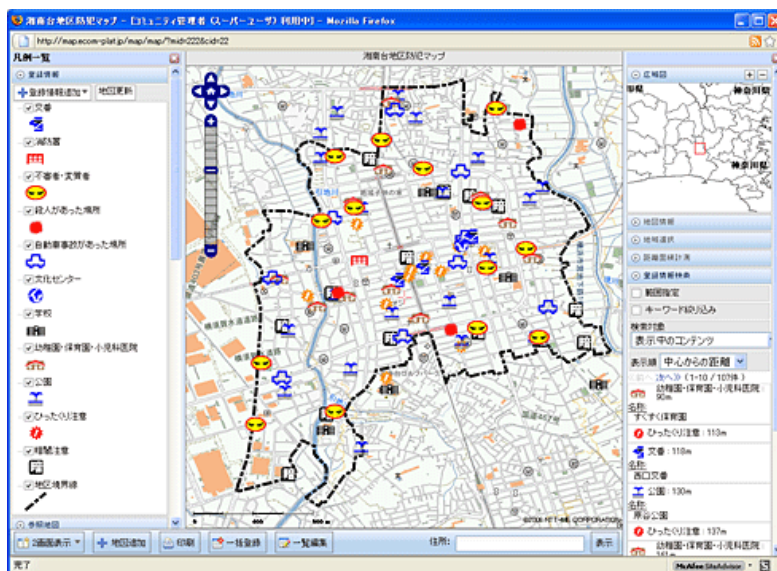
## ■コンテスト内で災害リスク情報を発信する「相互運用gサーバー」について



「相互運用 g サーバー」は、様々な地図データを、国際標準（WMS、WFS、WCS）に準拠してインターネット上に登録・公開・配信が可能なシステムです。国際標準に準拠することで、例えば Google Earth のような様々なシステムにおいて、地図データを重ねて表示することができるため、これまで以上に地図データが活用される可能性があります。

本コンテストでは、当研究所のプロジェクト「災害リスク情報プラットフォームの開発に関する研究」の一環として行う実証実験での利用許諾を受けた国・自治体等の災害リスク情報（ハザードマップやその作成に使用された地図等）を、当研究所に設置した本サーバーより提供いたします。本コンテストの参加者は、本コンテストの範囲内に限り、各種災害リスク情報を利用することが可能となります。具体的に使用できる災害リスク情報は、応募開始後、コンテストの Web サイトにて公表いたします。

## ■コンテストで使用することも可能な地図作成ツール「e コミマップ」について



インターネット上にある様々な地図データを、国際標準の形式に対応することで、一つの画面に様々な地図データを重ねて表示することができ、このような仕組みを「相互運用環境」と呼んでいます。e コミマップは、その相互運用環境に柔軟に対応可能であり、様々な機関が出すハザードマップや、他の機関が公開しているマップを重ねることができるインターネット上のマップシステムです。また、まちあるきを行うための地図印刷機能や、携帯電話による情報の追加機能があります。マップへの情報の追加は、マウスをクリックするだけで簡単に行うことができます。このシステムは、防災目的だけでなく、環境分野など様々な場面で活用が可能です。また、オープンソースで公開しており、誰もが e コミマップを使って新たな開発を行うことや、機能を追加することができます。

本コンテストで使用可能な災害リスク情報は、当所が設置する相互運用 g サーバーより配信されますが、それを e コミマップの地図画面上に表示し、利用することができます。また、マッシュアップしたデータが国際標準の形式に対応している場合も、地図画面上に表示することができます。

詳しくは、e コミュニティ・プラットフォーム 2.0 のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.bosai-drip.jp/ecom-plat/index.htm>